

》商工会議所活用レシピ

何としても生き残りたい！ 鰻屋を続けたい！
新会社を設立し、事業再建に奮闘中



株式会社川千家
代表取締役社長
天宮 久嘉さん

映画「男はつらいよ」の寅さんの名調子、「生まれは葛飾、柴又。」帝釈天の門前で鰻・鯉・川魚といえは「川千家」と親しまれ続けて250年。私で10代目です。平成17年に新会社を設立したのを機に継ぎました。

バブル経済期は宴会も盛況で、その勢いに乗って4年にビルを併設。12億円を借り入れ、座敷を広げ100名様まで対応できる大小14の宴会場を持つという、攻めの投資に出ました。

お察しの通り、その後のバブル崩壊で宴会が激減。営業利益は何とか出ていましたが、借金が返せない。9年からは利息だけ、12年にはそれすら待ってもらうことも。当時、父が社長で私は専務という立場でしたが、約60人いたパート、従業員に事

情を話し全員解雇するリストラを断行。仕出しと座敷をやめて収益の出ていた食堂に注力し25人で再スタートを切りました。「何としても生き残りたい、鰻屋を続けたい」

気がかりが焦って、「倒産」という言葉もちらつく中、東京商工会議所が窓口になっている「東京都中小企業再生支援協議会」を知りました。親身になって相談に応じてくださり、早速、弁護士、公認会計士、中小企業診断士らによるアドバイザーチームが生まれ支援が開始。自社の現状を徹底的に分析し、再生に向けて12カ年計画を策定しました。経営責任を取って父が社長を退任し、新会社を設立し私財を提供。事業資産と、再出発できる額に絞った借入金を事業譲

渡しました。旧会社は特別清算の形をとり、メインバンクの亀有信用金庫さんには残債務を放棄していただきました。

「老舗」という看板にあぐらをかき、店を開ければ客が来るのは当たり前という待ちの姿勢だったのは確か。経営面でも中小企業診断士のアドバイザーなどいたしながら、徹底的に原価と経費を見直し、社員教育、サービスの強化にも努めています。

また、地域活動にも精力的に参加し、取材なども積極的に引き受け、柴又を、川千家を懸命に売り込んでいます。

私にとっては今が正念場。この地で鰻屋を続けたい。どうぞ下町情緒の残る「柴又」「川千家」に、ぜひいらしてください。

担当者からひと言



東京商工会議所
中小企業相談センター主査
(中小企業再生支援協議会)
米村 達郎

中小企業再生支援協議会は法律に基づいた公的組織。各都道府県にあります。法的再生と異なり、私的再生の枠組みの中で、実現可能性の高い再生計画の策定支援と金融債権者間の調整を行います。

川千家さんは柴又の顔。倒産したら、仕入れ先はもちろん、地域への影響も計り知れません。経営陣の熱意もさることながら、借入先の地元の信金さんに支援の意義を理解いただけたことが、実行の力ギとなりました。

再生支援協議会は、企業の総合病院のようなもの。症状の重い軽いにかかわらず、健康診断を受ける感覚でも結構です。お気軽にご相談いただきたいと思えます。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ